

⑥2 いわき建設事務所管内の防災緑地事業（7箇所）

授賞機関 福島県 いわき建設事務所

キーワード ワークショップ、防災緑地づくり協定

全建賞審査委員会の評価ポイント

総合的な防災力の高いまちづくりを目指し、7地区に防災緑地を整備した事業。地域住民を交えたワークショップの結果を計画に取り入れるなど、計画構想段階から地域住民と一緒にしながら整備を進め、「地域に愛され、地域の親しみのある防災緑地」を実現した点が評価された。

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波で、いわき市の沿岸部では、多くの方がお亡くなりになるとともに多数の施設等に甚大な被害を受けたため、県では嵩上げた堤防、防災緑地、道路のハード整備及び防災教育、避難経路の表示等のソフト対策など複数の手法を組み合わせた「多重防御」により総合的に防災力が向上する復興まちづくりを進めてきており、その中において、当管内では7箇所での防災緑地を整備し、令和元年10月8日をもって全ての防災緑地が完成した。

2. 事業の概要

防災緑地とは、海岸堤防背後地に盛土してクロマツや広葉樹を植樹したもので、これは東日本大震災で海岸防災林が津波被災の軽減効果を発揮したことによる。



復興まちづくりのイメージと防災緑地の位置づけ

この防災緑地は、3つの機能を有している。

- (1) 防災機能（非常時）
 - i) 津波を減衰し、浸水被害範囲を軽減し、避難時間を確保する。
 - ii) 津波による漂流物を捕捉し、漂流物の衝突による被害を軽減する。
- (2) 地域振興機能（通常時）

海洋レクリエーションや自然とのふれあいの場として活用する。
- (3) 景観・環境の再生・形成機能（通常時）

地震や津波で失われた景観や環境の再生・形成を図る。

3. 事業の成果

防災緑地の計画策定時には、地域の方々と交えたワークショップを開催し、様々な意見や思いを出してもらい、それを計画に取り入れることにより、地域と行政の協働により防災力を守り育てていく関係を構築することができた。

工事中には、地域に植生しているDNAを防災緑地で再生させるため、小学生など地域の方々に地域のドングリを採取してもらい、苗木を育て、その苗木を防災緑地に植樹してもらう「ドングリプロジェクト」や苗木を地域の方々に植樹してもらう「植樹祭」を開催したところであり、地域の方々と一緒に育み、愛される防災緑地づくりを行うことができた。



ドングリプロジェクトによる植樹の様子（平成28年10月）

また、防災緑地は地域の方々の日常生活に身近な公園施設となることから、地域の方々に草刈りなどの維持管理を行ってもらい「防災緑地づくり協定」を県・市・地元行政区等と締結したことにより、防災緑地の必要性・役割を定期的に認識して地域の方々と防災緑地を繋いでいくことが期待できる。

4. おわりに

防災緑地の整備には、地域の方々と始め、多くの方々のご協力を得て、無事、完成することができた。今後も「地域に生まれ、地域に愛される防災緑地」となるよう引き続き、地域の方々と交えた取り組みを行っていきたい。

賛助会員 (株)東コンサルタント、(株)エイト日本技術開発、(株)オリエンタルコンサルタンツ、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、福浜大一建設(株)、(株)三崎組